

盗まれた子供

スュリッス森の高原の
岩山ふかい湖に、
木の葉の茂る島がある、
白鷺羽根を拵げれば、
まどろむ鼠の目をさます。
そこに隠した妖精の樽は、
いちごがいっぱい、盗んできた
真っ赤な桜んぼもあふれてる。
こちらにおいで！おお人の子よ！
いっしょに行こう森へ、湖へ、
妖精と手に手をとって、
この世にはお前の知らぬ
悲しい事があふれてる。

月の光の波に照る
ほのかに暗い砂の上、
遠いはるかなロセッスで、
夜どおし踏むは足拍子
揺れる昔の踊り振り、
手に手をつなぎ見交して、
月が隠れてしまうまで、
あちらこちらへとび跳ねながら、
空っぽの泡を追いかけてまわす。
この世は辛いことばかり、
心配事で眠れもしない、
そんな嘆きはよそにして。
こちらにおいで！おお、人の子よ！
いっしょに行こう森へ、湖へ
妖精と手に手をとって、
この世にはお前の知らぬ、
悲しい事があふれてる。

カー谷見下す小山から
溢れ流れる湧き水は、
藪草の中に溜り水、
星さえ顔をのぞかせぬ、

そこにまどろむ鱒たちの
耳に口寄せ囁いた、
不吉な夢を鱒は見る、
羊歯からそっと身を出して、
涙の露をはらはらと、
羊歯は落とした新川に。
こちらにおいで！おお、人の子よ！
いっしょに行こう森へ、湖へ
妖精と手に手をとって、
この世にはお前の知らぬ
悲しい事があふれてる。

その子は真面目な眼付きをし、
妖精たちとやってくる、
暖かな小山の原で鳴く牛も、
炉棚でやかんがうたう歌も、
平和なこうした歌声を二度と聞くまい、
茶色の鼠が麦びつを、
くるくる廻る姿さえ二度と見るまい、
その子は来たのだ、人の子は、
森へ、そして湖へ、
妖精と手に手をとって、
この世にはその子の知らぬ、
悲しいことがあふれてる。